



トヨタ自動車田原工場 第2風力発電所

環境影響評価準備書のあらまし

2026年9月

トヨタ自動車株式会社

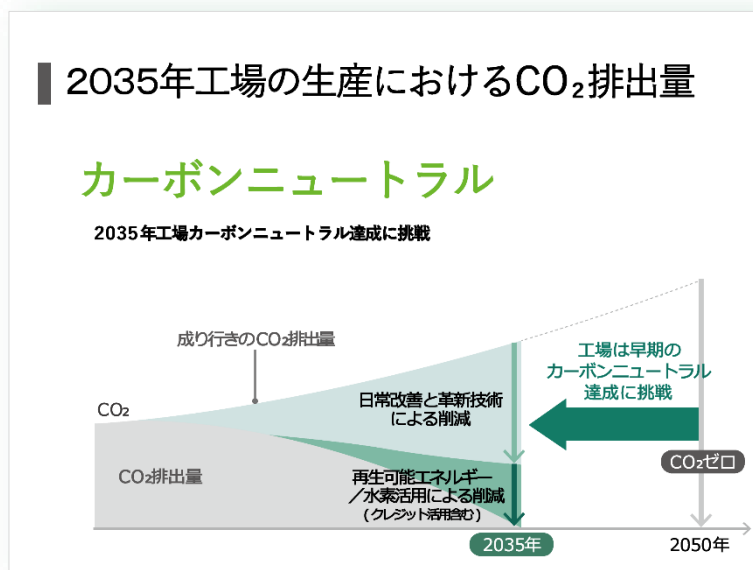
はじめに

平素より、トヨタ自動車及び当社田原工場での自動車の生産をはじめとする様々な取り組みにご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

当社では、2015年10月に持続可能な社会の実現に貢献するための新たなチャレンジとして、「トヨタ環境チャレンジ2050」を発表した中で「工場CO₂ゼロチャレンジ」を掲げ、2050年にグローバルでの工場からのCO₂排出ゼロを目指しています。さらにその後、2021年6月には、今後のものづくりに関する方針を発表し、世界の自社工場におけるCO₂排出を2035年にカーボンニュートラルにする目標を設定しました。



そこでこの度、株式会社ジェイウインドによる「田原風力発電所」及び「田原臨海風力発電所」の更新事業を承継することにより、良好な風況の地域に所在し、トヨタ自動車の国内工場の中では風力発電の導入に最も適している田原工場に、2つ目の風力発電所を建設する計画を立てました。この「トヨタ自動車田原工場 第2風力発電所」は、「工場CO₂ゼロチャレンジ」の達成に向けて重要な位置付けとなっています。



このように本事業は、地球温暖化問題に対する国の政策及び愛知県、田原市の取り組みにも即したものであるとともに、脱炭素に資する国産エネルギー源の活用によるエネルギー自給率向上への寄与も期待される事業になります。

事業計画の概要

■ 対象事業の内容

対象事業の名称	トヨタ自動車田原工場第 2 風力発電所*
原動力の種類	風力(陸上)
出力	30,100kW(4,300kW 機×7 基)
所在地	愛知県田原市緑が浜三号 1 番地トヨタ自動車田原工場
運転開始時期	2031 年 3 月末(予定)

注)*：環境影響評価方法書までは「（仮称）新田原臨海風力発電所」としていたが、事業承継に伴い特定対象事業の名称を変更した。

■ 工事の工程

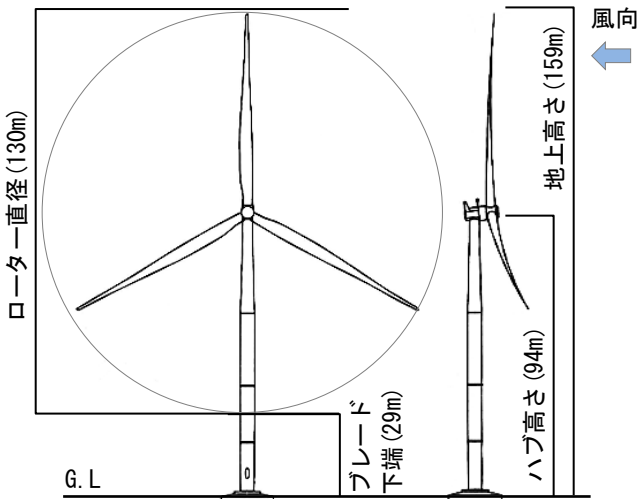
年 月	2028 年												2029 年												2030 年												2031 年		
工事内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
造成・基礎 工事																																							
風力発電機 輸送工事																																							
風力発電機 据付工事																																							
電気工事 ・ 検査																																							

■ 風力発電機の概要

項 目	概要
定格出力(定格運転時の出力)	4,300kW
ローター直径(ブレードの回転直径)	130m
ハブ高さ(ブレードの中心の高さ)	94m
地上高さ	159m
カットイン風速	3m/秒
カットアウト風速	28m/秒
耐用年数	20 年

注 1)カットイン風速:風力発電機が利用可能な動力を生むハブ高さにおける最小の風速。
2)カットアウト風速:風力発電機が利用可能な動力を生むハブ高さにおける最大の風速。

【風力発電機概形】



■ 風力発電機の配置計画

【風力発電機配置図】



環境影響評価の項目の選定

■ 環境影響評価の項目の選定

影 響 要 因 の 区 分				工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
				工 事 用 資 材 等 の 搬 出 入	建 設 機 械 の 稼 働	一 時 的 な 影 響 造 成 等 の 施 工 に よ る	地 形 改 変 及 び 施 設 の 存 在	施 設 の 稼 働
環 境 要 素 の 区 分								
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として、調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	騒音及び超低周波音	騒音	○	○			○
			超低周波音					○
		振動	振動	○				
	水環境	水質	水の濁り		×	×		
		底質	有害物質		×			
	その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				×	
		その他	風車の影					○
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地 (海域に生息するものを除く)				○	○	○
		海域に生息する動物				×	×	
	植物	重要な種及び重要な群落 (海域に生育するものを除く)				○	○	
		海域に生育する植物				×	×	
	生態系	地域を特徴づける生態系				○	○	○
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					○	
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場		○			×	
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	産業廃棄物				○		
		残土				○		
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき環境要素	放射線の量	放射線の量		×	×	×		

注 1) は「発電所アセス省令」第 21 条第 1 項第 6 号に定める「風力発電所 別表第 6」の参考項目を示す。

2) は「発電所アセス省令」第 26 条の 2 第 1 項に定める「別表 13」の放射性物質に係る参考項目を示す。

3) ○：「主務省令」に記載のある参考項目であり、本事業による環境影響が想定されるため、環境要素として選定する項目

×：「主務省令」に記載のある参考項目であるが、参考項目に関する環境影響がないか又は環境影響の程度が極めて小さいことが明らかであるか、対象事業実施区域又はその周囲に参考項目に関する環境影響を受ける地域その他の対象が相当期間存在しないことが明らかであるため、環境要素として選定しなかった項目

環境影響評価結果の概要

騒音

1. 騒音の状況

- 道路交通騒音の状況 -

(単位:デシベル)

調査地点		用途地域	環境基準の地域の類型	測定値	環境基準 (参考)
TN-1	平日	工業専用	-	66	70
	土曜			63	
TN-2	平日	工業専用	-	63	70
	土曜			62	

注 1) 時間区分は、騒音に係る環境基準の昼間(6時～22時)である。
2) 環境基準は「幹線交通を担う道路に近接する空間」の値とした。

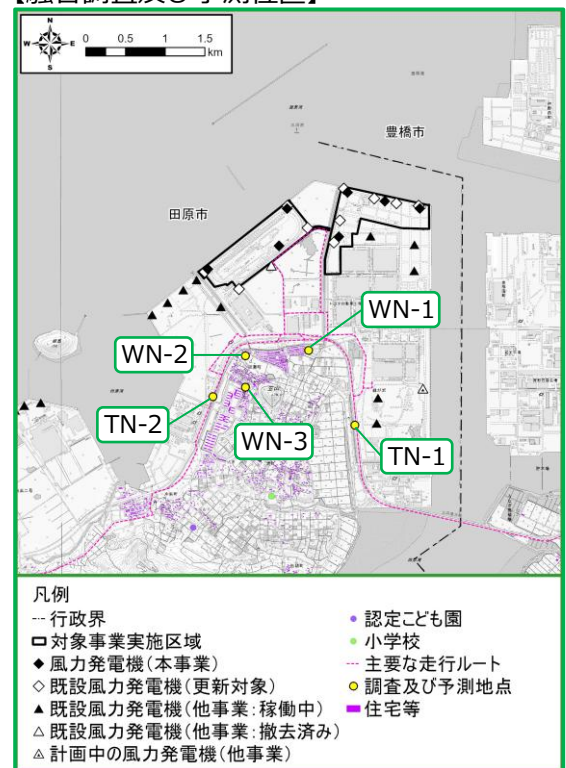
- 環境騒音の状況 (建設機械の稼働に伴う騒音) -

(単位:デシベル)

調査地点		調査結果		環境基準 (L_{Aeq})
		等価騒音 レベル (L_{Aeq})	時間率騒音 レベル (L_{A5})	
WN-1	平日	44	45	55
	土曜	41	47	55
WN-2	平日	42	46	55
	土曜	42	45	55
WN-3	平日	46	47	55
	土曜	44	48	55

注 1) 調査結果は昼間 (6時～22時) の結果を示す。
2) 環境基準は「A 類型」の値。

【騒音調査及び予測位置】



- 環境騒音の状況 (施設の稼働に伴う騒音) -

(単位:デシベル)

調査地点	時間区分	調査結果 (残留騒音の等価騒音レベル: $L_{Aeq, resid}$)				調査結果 (総合騒音の等価騒音レベル: $L_{Aeq, total}$)			
		秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季
WN-1	昼間	43	43	42	49	45	44	42	51
	夜間	40	42	44	45	40	41	44	46
WN-2	昼間	44	42	39	46	46	43	42	47
	夜間	42	40	39	45	42	39	40	44
WN-3	昼間	41	45	40	44	43	46	41	47
	夜間	39	43	38	42	39	43	38	44

注) 時間区分: 昼間 6時～22時、夜間 22時～翌 6時

環境影響評価結果の概要

2.環境影響の予測評価

- 工事用資材等の搬出入 -

○予測結果

(単位:デシベル)

予測地点		一般車両		一般車両+ 工事用資材等の搬出入車両		工事用資材等 の搬出入によ る増加分	環境 基準 (参考)
		現況実測値 L_{gj}	現況計算値 L_{ge}	将来計算値 L_{se}	補正後将来 予測値 L_{Aeq}'		
		a			b	b-a	
TN-1	平日	66	70	70	66	0	(70)
	土曜	63	66	66	63	0	(70)
TN-2	平日	63	65	66	64	1	(70)
	土曜	62	63	65	64	2	(70)

注) 騒音に係る環境基準の昼間(6時~22時)に対応する予測結果を示す。

○評価結果

予測の結果、工事用資材等の搬出入に伴う騒音は、63~66デシベルであり、現況からの増加分は0~2デシベルと予測されます。

以上のことから、環境基準(幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準値(70デシベル))との整合は図られているものと評価します。

- 建設機械の稼働 -

○予測結果

・近傍集落

(単位:デシベル)

予測地点	現況実測値(L_{Aeq})	騒音レベルの予測結果 (L_{Aeq})		増加分	環境基準 (A類型)
		寄与値	予測値		
WN-1	44	44	47	3	55
WN-2	43	44	47	4	
WN-3	45	42	47	2	

注 1) 現況実測値は、建設機械稼働時間(8時~12時、13時~17時)の等価騒音レベル(L_{Aeq})値。

2) 予測値は予測地点ごとに、工事期間中に最大となる時期の数値を示す。

3) 予測地点は「騒音に係る環境基準について」に基づくA類型に指定されており、昼間(6時~22時)の環境基準を当てはめた。

・敷地境界

(単位:デシベル)

予測地点	工事種別	時期	建設機械騒音の L_{Aeff}	補正值 ΔL^{*1}	予測結果 (L_{A5})	規制基準 ^{*2}
建設機械の稼働に伴う寄与最大地点	本体組立	2030年3月前半	64	8	72	85

注)*1:「建設工事騒音の予測モデル(ASJ CN-Model 2007)」のユニットごとに示される値を参考に「鋼橋架設」の値を用いた。

*2: 予測地点は工業専用地域のため、「騒音規制法」に基づく規制地域に指定されていないが、「特定建設作業に伴って発生する騒音に関する規制基準」の基準値を当てはめた。

○評価結果

予測の結果、建設機械の稼働に伴う等価騒音レベル(L_{Aeq})は47デシベルであり、現況からの増加分は2~4デシベルと予測されます。また、対象事業実施区域境界における時間率騒音レベル(L_{A5})は、72デシベルと予測されます。

以上のことから、環境基準及び特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準との整合は図られているものと評価します。

環境影響評価結果の概要

- 施設の稼働 -

○予測結果

(単位:デシベル)

季節 節	予測地点		残留騒音	予測結果				評価	
				本事業		累積的影響			
				予測値	増加分	予測値	増加分	評価の目安と なる指針値	指針値との 比較
秋 季	WN-1	昼間	41	41	0	43	2	46	○
		夜間	-	(33)	-	(40)	-	-	(○)
	WN-2	昼間	40	40	0	43	3	45	○
		夜間	-	(33)	-	(42)	-	-	(○)
	WN-3	昼間	37	37	0	40	3	42	○
		夜間	-	-	-	(38)	-	-	(○)
冬 季	WN-1	昼間	39	40	1	43	4	44	○
		夜間	38	39	1	42	4	43	○
	WN-2	昼間	-	-	-	(42)	-	-	(○)
		夜間	-	-	-	(38)	-	-	(○)
	WN-3	昼間	43	43	0	45	2	48	○
		夜間	40	40	0	43	3	45	○
春 季	WN-1	昼間	41	41	0	42	1	46	○
		夜間	44	44	0	44	0	49	○
	WN-2	昼間	35	35	0	38	3	40	○
		夜間	36	36	0	38	2	41	○
	WN-3	昼間	39	39	0	40	1	44	○
		夜間	36	36	0	38	2	41	○
夏 季	WN-1	昼間	49	49	0	49	0	54	○
		夜間	45	45	0	45	0	50	○
	WN-2	昼間	45	45	0	46	1	50	○
		夜間	44	44	0	45	1	49	○
	WN-3	昼間	44	44	0	44	0	49	○
		夜間	41	41	0	42	1	46	○

注 1) 時間区分は、昼間 6 時～22 時、夜間 22 時～6 時である。

2) 評価の目安となる指針値は、以下のとおりである。

(1) 残留騒音が 35 デシベル以上の場合、指針値は残留騒音 + 5 デシベル

(2) 残留騒音が 30～34 デシベルの場合、指針値は 40 デシベル

(3) 残留騒音が 29 デシベル以下の場合、指針値は 35 デシベル

3) 残留騒音は、現況実測値から騒音調査時点における既設の風力発電所の寄与値(計算値)を差し引いた値である。

4) 既設の風力発電所の寄与値(計算値)が現況実測値以上の場合、残留騒音、増加分及び評価の目安となる指針値は、計算できないため「-」とした。ここで、予測値については、次の式で計算できる場合は計算結果を()で示した。

予測値 = 現況実測値 - 既設の風力発電所の寄与値 + 予測対象風力発電機の寄与値 (デシベル値をエネルギーに換算した計算)

5) 「指針値との比較」の欄の「○」は指針値以下であることを示す。なお、6)に示す箇所については、「(○)」で示す。

6) 秋季の WN-1 夜間、WN-2 夜間、WN-3 夜間、冬季の WN-2 昼間及び夜間については、次のことから指針値以下になると考えられる。調査結果より、同じ風速においては、既設風力発電機の稼働時及び停止時の騒音レベルは同程度の騒音レベルの範囲で分布していたことから、現況において既設の風力発電所の寄与は小さく、指針値を超過していないものと考えられる。また、本事業の風力発電機の寄与値は既設の風力発電所の寄与値よりも小さいことから、予測値は現況実測値よりも小さくなるものと予測される。

○評価結果

予測値について、「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」(平成29年5月環境省)と比較すると、予測結果はいずれの地点においても、全ての季節及び時間帯で指針値以下です。

以上のことから、基準又は目標との整合は図られているものと評価します。

環境影響評価結果の概要

■ 超低周波音

1. 超低周波音の状況

対象事業実施区域及びその周辺において、超低周波音の調査を行いました。

対象事業実施区域の周辺の3地点(騒音と同地点)で現地調査を実施した結果、G特性音圧レベルは昼間で62～71デシベル、夜間で59～69デシベルでした。

2. 環境影響の予測評価

- 施設の稼働 -

○ 予測結果(本事業及び累積的影響)

(単位:デシベル)

予測地点		現況 実測値	予測結果						超低周波音を感じる 最小音圧レベル (ISO 7196:1995)
			本事業			累積の影響			
			風力 発電機 寄与値	予測値	増加分	風力 発電機 寄与値	予測値	増加分	
WN-1	昼間	67	65	69	2	71	72	5	100
	夜間	66		69	3		72	6	
WN-2	昼間	71	65	72	1	70	74	3	
	夜間	69		70	1		73	4	
WN-3	昼間	71	63	72	1	69	73	2	
	夜間	69		70	1		72	3	

注 1) 現況実測値及び予測値の時間区分は、昼間 6 時～22 時、夜間 22 時～6 時である。

2) 現況実測値は、調査結果が高い傾向にあった秋季調査(WN-1、WN-3)、冬季調査(WN-2)を用いた。

○ 評価結果

予測の結果、本事業によるG特性音圧レベルは、昼間で69～72デシベル、夜間で69～70デシベルであり、現況値からの増加分は1～3デシベルです。また、累積的な影響によるG特性音圧レベルは、昼間で72～74デシベル、夜間で72～73デシベルであり、現況値からの増加分は2～6デシベルです。

予測結果は、いずれもG特性音圧レベルのISO 7196に示される「超低周波音を感じる最小音圧レベル」の基準値の100デシベルを下回っています。

以上のことから、本事業及び累積的な影響による予測値は、基準又は目標との整合は図られているものと評価します。

■ 振動

1. 振動の状況

工事用資材等の搬出入車両が走行する主要な輸送経路を考慮し、振動に係る影響を受けるおそれがある地域において振動の調査を行いました。これらの調査結果は次のとおりです。

- 道路交通振動の状況 -

(単位:デシベル)

調査地点		用途地域	要請限度の 区域の区分	測定値	要請限度 (参考)
TN-1	平日	工業専用	-	45[45]	(70)
	土曜			39[43]	(70)
TN-2	平日	工業専用	-	41[44]	(70)
	土曜			38[42]	(70)

注 1) 時間区分は、愛知県知事の定める道路交通振動の要請限度の昼間の区分(7 時～20 時)である。

2) 要請限度は、参考として第 2 種区域の値を示す。

3) 測定値の[]は、調査期間中の 1 時間値の最大値を示す。

環境影響評価結果の概要

2.環境影響の予測評価

- 工事用資材等の搬出入 -

○予測結果

(単位:デシベル)

予測地点		一般車両		一般車両+ 工事用資材等の搬出入車両		工事用資材等の搬 出入による増加分	要請限度 (参考)
		現況実測値 L_{qi}	現況計算値 L_{ge}	将来計算値 L_{se}	補正後将来予測値 L_{10}'		
		a			b		
TN-1	平日	45	50	51	46	1	(70)
	土曜	43	49	50	44	1	(70)
TN-2	平日	44	44	48	48	4	(70)
	土曜	42	44	48	46	4	(70)

注 1) 時間区分は、愛知県知事の定める道路交通振動の要請限度の昼間の区分（7時～20時）である。

2) 要請限度は、参考として第2種区域の値を示す。

○評価結果

予測の結果、工事用資材等の搬出入に伴う振動は平日の昼間46～48デシベル、土曜の昼間44～46デシベル、現況からの増加分は1～4デシベルと予測され、すべての地点で平日・土曜ともに「要請限度」以下です。

以上のことから、基準又は目標との整合は図られているものと評価します。

■ 風車の影

1.風車の影の状況

対象事業実施区域及びその周辺において風車の影の踏査を行いました。踏査の結果、対象事業実施区域の南側に集落が存在するほか、田、畑等の農地が分布しています。学校等の施設は、対象事業実施区域の南側に童浦小学校等が存在します。

2.環境影響の予測評価

- 施設の稼働-

○予測結果

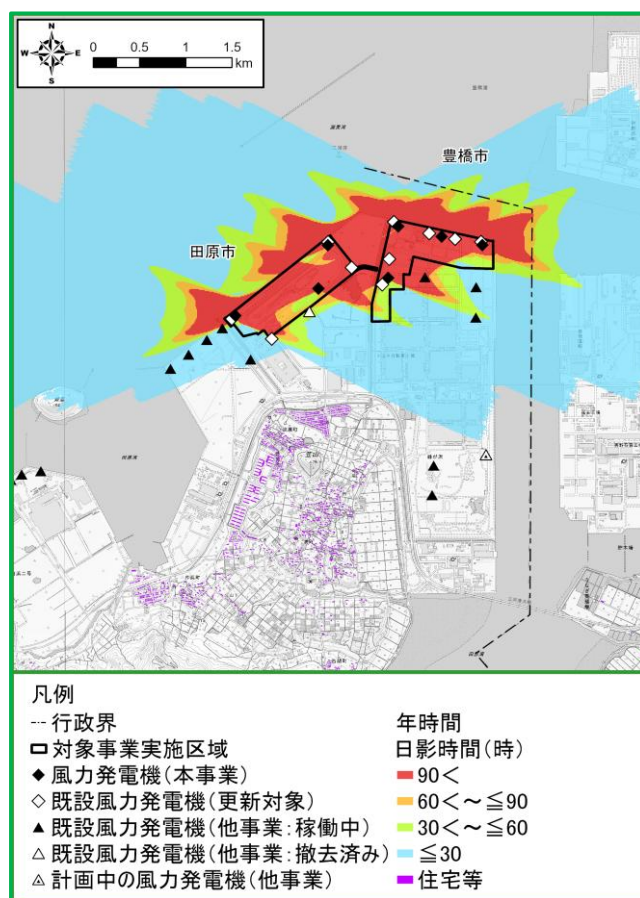
風車の影は住宅位置に到達せず、年間日影予測時間はいずれの住宅も0分と予測されます。

○評価結果

予測の結果、風車の影は住宅位置には到達せず、年間日影予測時間はいずれの住宅も0分と予測されます。

以上のことから、基準又は目標との整合は図られているものと評価します。

【風車の影 年間日影図】



環境影響評価結果の概要

■ 動物

1.動物の状況

重要な種として、哺乳類2種、鳥類67種、昆虫類3種が確認されました。
また、注目すべき生息地は対象事業実施区域内では確認されませんでした。

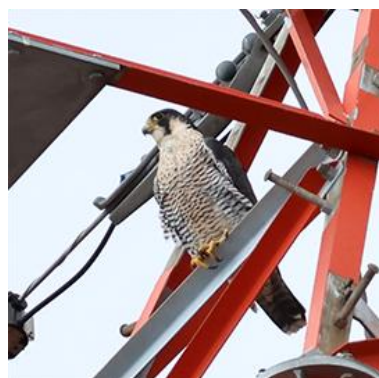
・動物の主な確認種

分類		確認種数	重要な種
哺乳類	コウモリ類以外	3目5科6種	哺乳類:2種(加ねミ、コウモリ目の1種*(45kHz~50kHz))
	コウモリ類	2科2種	
鳥類		18目46科174種	鳥類:67種(マガン、ツシガモ、ヒロトキ、アマツバメ、ツツドリ、ヒクケ、ケリ、ダイゼン、シロトビ、オオハシ、ハラシ、ミズバ、コアシ、クワハラシ、チウサギ、ミサ、オカ、チュウ、サバ、フクロ、ハヤブサ、アカハ、ヒンズイ、オカ等)
	猛禽類	3目3科15種	
爬虫類		2目5科6種	爬虫類:0種
両生類		1目3科3種	両生類:0種
昆虫類		13目138科454種	昆虫類:3種(マコガ、ギンイチモンジセセリ、クハバ)

注)*: モモジロコウモリの場合、「レッドリストあいち 2025」のVUに該当する。
ノレンコウモリの場合、「環境省レッドリスト 2020」のVU、「レッドリストあいち 2025」のCRに該当する。
ユビナガコウモリの場合、「レッドリストあいち 2025」のENに該当する。



ハマシギ(左後)、ミユビシギ(右前)



ハヤブサ



ギンイチモンジセセリ

2.環境影響の予測評価

○予測結果

現地調査で確認された重要な種及び渡り鳥を予測対象とし、影響を予測したところ、重要な種及び渡り鳥への影響は小さいと考えられました。しかし、コウモリ類、鳥類の重要な種及び渡り鳥については、予測に不確実性があると考えられました。

○評価結果

予測の結果を踏まえ、コウモリ類、鳥類の重要な種及び渡り鳥については事後調査を行い、環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合には、専門家等の指導及び助言を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じることとします。

このことから、事業者の実行可能な範囲で影響の低減が図られているものと評価します。

■ 植物

1. 植物の状況

重要な種として、被子植物の2種が確認されました。

対象事業実施区域にはセイタカアワダチソウ群落、外来低木群落、路傍・空地雑草群落等が点在していました。また、対象事業実施区域の周囲の養鰻場跡地や埋め立てにより造成された地区に残された水域の周囲にはヨシ群落、ヒトモトススキ群落、ヒメガマ群落が分布していました。

なお、対象事業実施区域の周囲の重要な群落としては、植生自然度9及び植生自然度10に該当するタブノキ・エノキ群落、ヤナギ低木林、ヒルムシロ属優占群落、コアマモ群落が確認されました。



カワヂシャ

・ 植物の主な出現種

分類群			確認種数	重要な種
シダ植物			12	シダ植物：0 種
種子植物	裸子植物		8	裸子植物：0 種
	被子植物	単子葉類	122	被子植物：2 種（ハマサジ、カワヂシャ）
		真正双子葉類	292	
		その他	9	

2. 環境影響の予測評価

○ 予測・評価結果

予測の結果、重要な種等への影響はないと考えられます。

このことから、事業者の実行可能な範囲で影響の低減が図られているものと評価します。

■ 生態系

1. 生態系の状況

地域の生態系の特徴を表す上位性の注目種としてチュウヒを選定し、生息状況及び食性調査、餌量調査を実施しました。

また、典型性の注目種としてオオヨシキリ、ホオジロを選定し、生息状況及び餌量調査を実施しました。

2. 環境影響の予測評価

○ 予測結果

上位性の注目種のチュウヒ、典型性の注目種のオオヨシキリ、ホオジロを予測対象とし、影響を予測したところ、生態系への影響は小さいと考えられました。しかし、予測に不確実性があると考えられました。



チュウヒ（♂成鳥）

○ 評価結果

予測の結果を踏まえ、上位性の注目種のチュウヒ、典型性の注目種のオオヨシキリ、ホオジロについては事後調査を行い、環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合には、専門家等の指導及び助言を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じることとします。

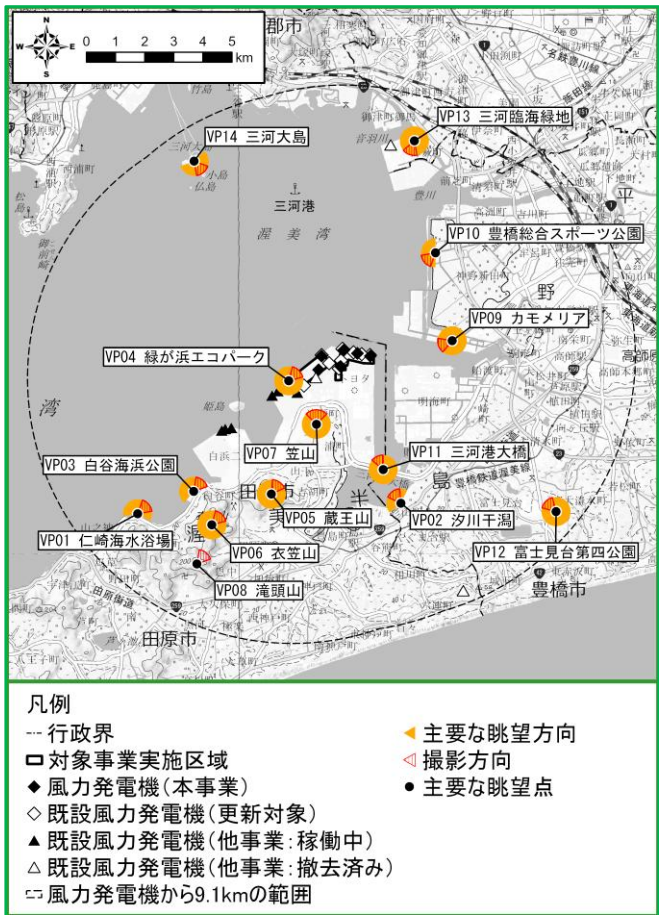
このことから、事業者の実行可能な範囲で影響の低減が図られているものと評価します。

■ 景観

1.景観の状況

対象事業実施区域及びその周辺約9.1kmの範囲には、19カ所の主要な眺望点が存在します。

【景観（主要な眺望景観）調査位置】



【景観（日常的な視点場）調査位置】



2.環境影響の予測評価

○ 予測結果

主要な眺望点については、対象事業実施区域には「緑が浜エコパーク」を除き主要な眺望点には存在せず「緑が浜エコパーク」についても直接的改変を行わないことから、事業の実施に伴う改変は生じないと予測されます。

景観資源については、対象事業実施区域内に景観資源が存在しないことから、事業の実施に伴う改変は生じないと予測されます。

主要な眺望景観については、近景に位置する地形や建物等の存在により風力発電機が視野に占める程度は小さく、影響は小さいと考えます。「緑が浜エコパーク」は風力発電機を眺められる公園として整備され、風力発電機が大きく視認されるが、著しい環境影響を及ぼす要因とはならないと考えます。

日常的な視点場については、建物等の存在、地形や樹木等の遮蔽により、風力発電機が視野に占める程度は小さく、景観への影響は小さいと考えます。

項目	No.	名称	可視数(基)	垂直見込角(度)
主要な眺望景観	VP01	仁崎海水浴場	7	1度未満
	VP02	汐川干潟	7	1.4
	VP03	白谷海浜公園	7	1.1
	VP04	緑が浜エコパーク	7	43.5
	VP05	蔵王山	7	2.2
	VP06	衣笠山	7	1.5
	VP07	笠山	7	4.8
	VP08	滝頭山	0	-
	VP09	カモメリア	7	3.2
	VP10	豊橋総合スポーツ公園	7	1.7
	VP11	三河港大橋	7	2.1
	VP12	富士見台第四公園	5	1.1
	VP13	三河臨海緑地	0	-
	VP14	三河大島	7	1.1
日常的な視点場	VP15	光崎公園	1	1度未満
	VP16	光崎地区	1	1度未満
	VP17	姫見台地区	1	4.1
	VP18	浦町地区	1	2.2
	VP19	童浦小学校	0	-

注) ■ について、完成後の予測結果を P.12 に示す。

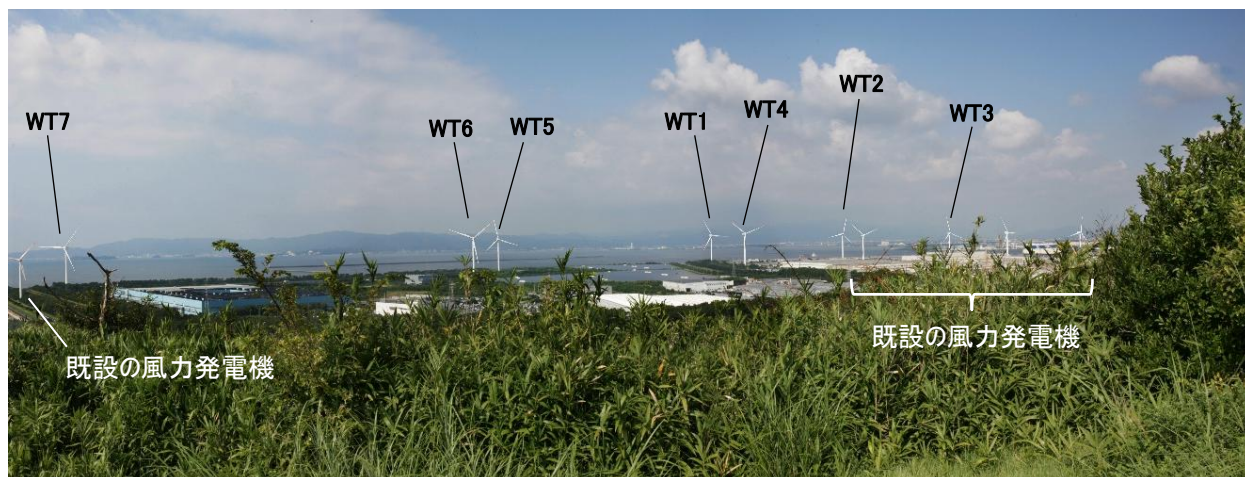
環境影響評価結果の概要

○評価結果

風力発電機の色は、背景の空と比較的なじみやすいとされている一般的な明灰色とすることにより、景観への影響は小さいと考えられることから、事業者の実行可能な範囲で影響の低減が図られているものと評価します。

・風力発電機建設後の予測結果

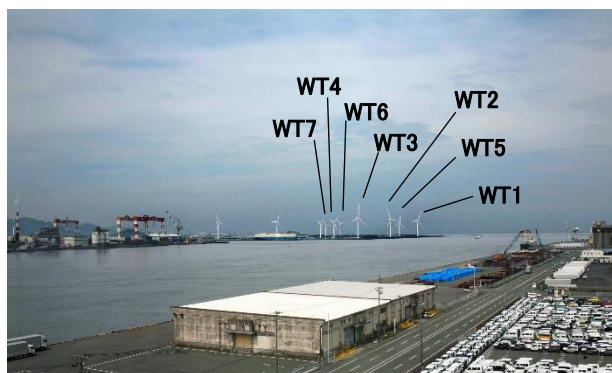
【笠山】



【緑が浜エコパーク】



【カモメリア】



【姫見台地区】



【浦町地区】



環境影響評価結果の概要

■ 人と自然との触れ合いの活動の場

1. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周辺には、人と自然との触れ合いの活動の場が存在します。このうち、「汐川干潟」は、対象事業実施区域から南に位置し、野鳥観察の場、干潟の生き物が観察できます。「緑が浜公園」は、対象事業実施区域から南西に位置し、スポーツや憩いの場所として利用されている海浜公園です。多目的広場やテニスコート、芝生広場やバーベキュー広場等があり、家族連れ等で利用されています。「笠山」は、対象事業実施区域から南に位置し、標高78m、笠山の入り口と七合目ほどの高さに、山を一周するウォーキング道が2つ整備されており、犬の散歩、ウォーキングなど、近隣住民に利用されている。また、頂上まで石段が整備されており、三河湾が一望でき、豊橋や蒲郡方面へも眺望が開けています。

2. 環境影響の予測評価

- 工事用資材等の搬出入 -

○ 予測結果

予測地点	予測結果
・ 汐川干潟 ・ 緑が浜公園 ・ 笠山	○ 本事業による関係車両の台数は、一般車両と比較して非常に少ない。 ○ 日曜日は原則休工とします。なお、イベント開催時は、必要に応じて主催者と協議を行い、関係車両の走行をできる限り控える等、環境保全措置を講じるとともに、一般車両の通行を優先する等の配慮を行うことにより、工事用資材等の搬出入による影響は小さいものと予測します。

○ 評価結果

事業者の実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価します。

■ 廃棄物等

- 廃棄物及び残土 -

○ 予測結果

・ 産業廃棄物

廃棄物	発生量	有効利用量	処分量	処理方法等
汚泥	180t	180t	0t	中間処理場にて造粒固化後、リサイクル
アスファルト・コンクリート塊	1,170t	1,170t	0t	中間処理場にて破碎リサイクル
コンクリート塊	5,270t	5,270t	0t	中間処理場にて破碎リサイクル
木くず	170t	170t	0t	中間処理場にて破碎リサイクル若しくは焼却
廃プラスチック類	30t	30t	0t	中間処理場にて破碎リサイクル
建設混合廃棄物	110t	110t	0t	中間処理場にて分別後、適正処分

・ 残土

項目	土量
掘削土量	15,200m ³
埋め戻し	8,400m ³
場外搬出	6,800m ³

○ 評価結果

予測の結果、工事の実施に伴い発生する産業廃棄物は中間処理場にて有効にリサイクルを行い、残土は可能な限り埋め戻しに利用します。やむを得ず再利用しきれない残土については、専門の処理会社に委託し、対象事業実施区域外に搬出し適切に処理することにより、影響を極力低減させることとします。

以上のことから、事業者の実行可能な範囲内で影響の低減されるものと評価します。

環境保全措置

－ 環境の保全のための措置の基本的な考え方 －

- ・ 工事中においては、工事工程及び工法に十分に配慮し、工事用資材等の搬出入車両の台数の低減等に努めることにより、騒音、振動等による環境影響の低減を図る計画とします。
- ・ 工事中に使用する建設機械は、可能な限り低騒音型・低振動型の建設機械を使用すること、適切な点検・整備等により、工事用資材の搬出入車両の性能維持に努めることにより、騒音、振動等による環境影響の低減を図る計画とします。
- ・ 風力発電機の稼働後においては、風力発電機の適切な点検、整備を実施し、異音の発生を低減する計画とします。
- ・ 動物及び植物の保全については、既往調査結果や土地利用状況等を十分考慮し、経年変化や知見等を最大限活用することで、周辺環境への影響の低減を図るとともに、ブレード等への彩色塗装を行うことで風力発電機の視認性を高め、鳥類の風力発電機のブレードやタワーとの衝突による影響の低減を図る計画とします。
- ・ 予測の結果、コウモリ類、鳥類の重要な種、渡り鳥、典型性鳥類におけるブレード・タワー等への接近・接触については、予測に不確実性があると考えられたことから、事後調査を実施し、環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合には、専門家等の指導及び助言を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じることとします。
- ・ 景観については、風力発電機の塗色を、周囲の環境に馴染みやすいような塗装とする計画とします。
- ・ 造成等の施工に伴い発生する廃棄物は、可能な限り有効利用に努め発生量を低減することとし、分別収集・再利用が困難な産業廃棄物は、専門の処理会社に委託し適正に処分する計画とします。
- ・ 掘削に伴う発生土は、埋め戻しに利用することにより、残土による影響を極力低減する計画とします。

事後調査計画

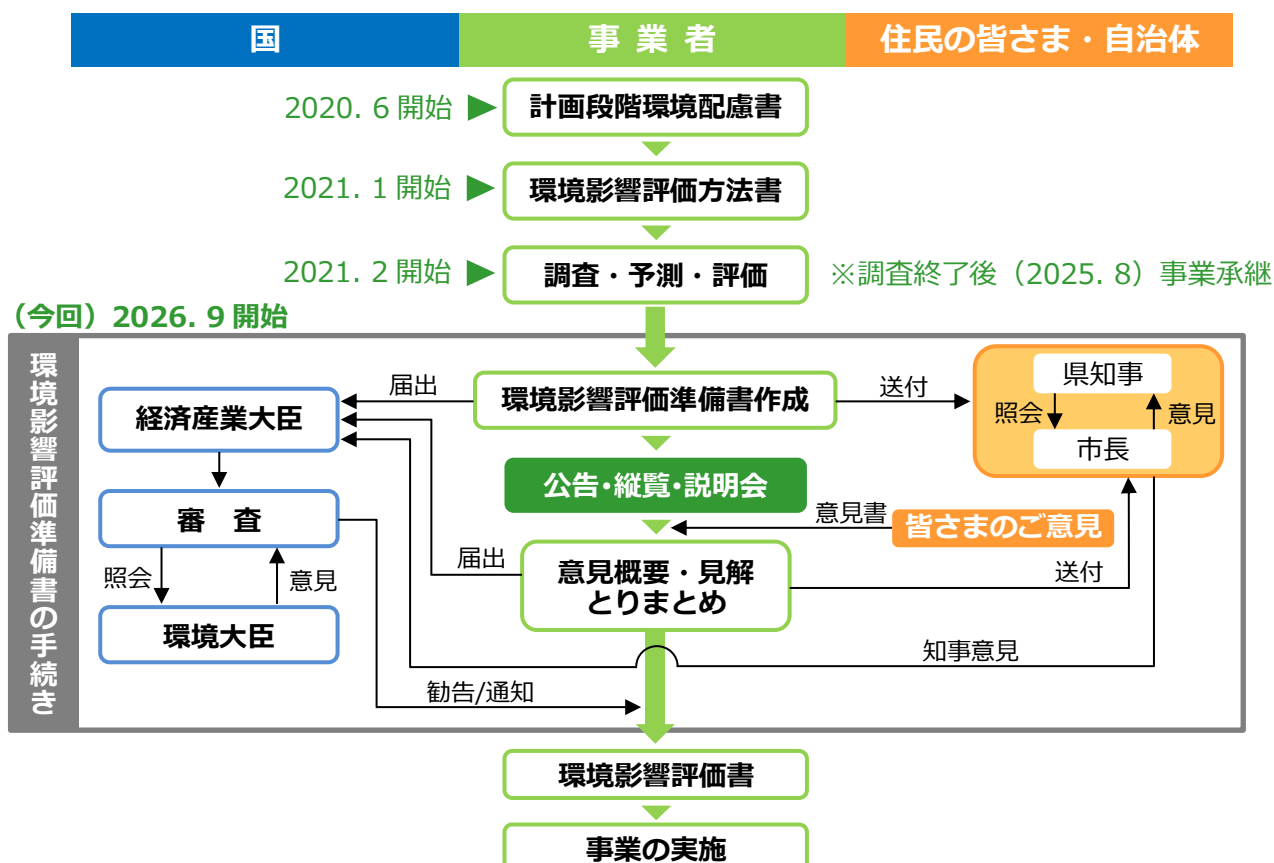
発電所の運転開始後には、以下のとおり事後調査を行います。

項目	実施内容
コウモリ類、鳥類の重要な種、渡り鳥、上位性（チュウヒ）、典型性鳥類（オオヨシキリ、ホオジロ）	運転開始後の1年間、1週間に1回以上の頻度で死骸調査を行います。

おわりに

トヨタ自動車田原工場第2風力発電所に係る環境影響評価準備書につきまして、そのあらましをご紹介しました。本事業の実施に当たりましては、環境保全と安全確保に十分配慮してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

■ 環境影響評価の手続き



■ 環境影響評価準備書の縦覧について

縦覧場所	縦覧期間	縦覧時間	備考
田原市役所市民環境部環境政策課	2026 年 9 月 8 日(火) ～ 10 月 14 日(水)	いずれも 開庁・開館の 時間帯のみ	2026 年 10 月 14 日(水)まで 閲覧可能
田原市中央図書館			
田原市童浦市民館			
豊橋市役所環境部環境保全課			
豊橋市大清水図書館			
豊橋市杉山生涯学習センター			
トヨタ自動車田原工場厚生センター			準備書手続き終了まで閲覧可能

注) 準備書は、トヨタ自動車株式会社のホームページでも閲覧できます。

https://global.toyota.jp/sustainability/esg/legal_regulatory_compliance/#environmental-assessment

■ 環境影響評価準備書に対する意見について

環境の保全の見地からのご意見をお持ちの方は、以下の方法により意見書をお寄せください。

提出方法	提出期限
・ 縦覧場所に備え付けの意見書箱への投函	2026 年 10 月 28 日(水) 午後 5 時まで
・ 下記お問い合わせ先への郵送	2026 年 10 月 28 日(水) 当日消印有効
・ 電子メールによる意見の送付 (cc-tahara2-iken@mail.toyota.co.jp)	2026 年 10 月 28 日(水) 午後 5 時まで

環境影響評価準備書に関するお問い合わせ先

トヨタ自動車株式会社 プラント・環境生技部 生産環境室

〒471-8571 愛知県豊田市トヨタ町1番地

TEL: 0565-23-3820